



發行所 磐城大和印刷所
印刷所 磐城大和印刷所
電話 七五五番
定額 一年 一元二角
半年 六角
三ヶ月 三角
一月 一角
零售 五分
……てしに正殿に「一トツモ」を平公

平の政友會の爲めに 敢て居中調停を進行

平市に於て政友會の解消せし
て存在を認むるとすれば、政
友會若くは政友派と提擧或
は握手の行動をとりつゝあ
る諸君、之等を統制する石城
部會の會長前代議員鈴木辰三
郎氏等に忠告を呈し、進んで
居中調停を提言せんとす。

市制第一歩の市會の役員選舉
に於て井上乃至は關内の一統
に心よからずとして反對黨の
民政黨と妥協の結果は野崎
選派の正副議長を決定したこ
ともなし、然し妥協屈從の利
は單に選派の副議長たるに止
まつたのではない、其後の
消息は遺憾ながら政友派をし
て大衆の物笑へとなり、團結
の破綻となり、隨じて既相の
行爲ではあるまい、彼等は正
道に畔き、私情に走りしのみ
是れ以上辯難の何物もなしの
誤りを免れ得ないのである。

石城政友 四人男

次期總選舉に於て政友派に
て出馬の野心あるは現代議員
の星一、前代議員の鈴木辰三
郎、縣會議員の小野澤平、そ
れに渡邊重雄の四氏であらう、
星は常に相續する氣概を吐
き、智略謀略をめぐらし
事ある毎に我が同志の獲得に
努力し勢力の伸張するの利
を悟り、徐らに自己の勢力
と政友の勢力とを落すべく
老練の味のある所を見せて居
るが、其の遣方は商賈を襲
ふての巧みがある、此點野
の擁護されぬことを常に考へ
て居るのであらう、此事たる
や政友に暗流あることを絶え
ず利用して居るかの觀がある
ことを發見することが出来得
るが、衆議には知れない、鈴木
は才幹あれども部下の習慣情
に左右されやすく、且、部下
人材に疲弊少なからず感する
ものではあるまいか、村會議
員、郡會議員、縣會議員、衆
議議員と進んで勳四等を頂
戴に及んだ氏としてはあと一
期位最後の御奉公をしたい事

反政友者に服従を誓ふ者あ
り、此の不統一不
合の理千萬の狀態の非は部會長の
鈴木辰三に歸せねばなるまい、
而して鈴木辰三は手腕あり、見
識あり、操守あり、微々たる
情實や感情に泥むが如きこと
なきを信じて疑はざる者であ
る、聰明の彼は必ずや部下の
不平を悉く慰撫して大義名分
論を唱へて結果を離れし結
局、關内氏を推薦應援すること
なるのであらう。

磐城之實業

今後の政黨人は特に清潔の氣
象に富まねばならぬ、濁れる
政客との批難は能く避けれねば
ならない、故に是非々々明瞭
の行動をなさねばならぬ、然
るに遺憾ながら政友派は「評議主
義」の提議を持ちしは依存
するを豫想しなくてはならぬ
事に心付かざるこそ不憚の
至りである、此處に付言した
きは地方新聞が春秋の筆法を
欠くことである、春秋の筆法
とは云ふまでもなく、孔子の
「春秋」の意氣精神のごとく

是れ以上辯難の何物もなしの
誤りを免れ得ないのである。

地方支店銀行と 金融關係を檢討

地方の支店銀行の多くは貸出しよりは預金集めに政策があるらしい、然し支店に或程度までの権限を與へて土地の金融情勢を回治ならしめて居る銀行もある先づ一例を取ることにして「お店位になれば必ず月々黒字がでるから、それを御預け願はないことには銀行はたつてまゐりません」と何か銀行に用であつて窓口に行けば、お上りなさいと御茶など出して、いとも丁寧な言葉で勧誘と云ふ手段をとる、行員たる者なかくうまいこれにのせられ、はそれでおしまひである

金額を大きくすると派手だが、まあ、千圓単位で説明しよう、但し筆者は貧乏人であるから、預金處か借る資格もないから、他人様に付いての事である、銀行に多少なりとも預金でもすれば融通はお手のものといふ人考へて「では」といふので、いゝ氣になつて千圓預金したとする、定期であれば年六分以下の利息で積立である、當座だと一帳尻は三割位残し

願ひ度、小切手で十圓以下の小額は御發行願はぬことになつて居ります、先付をお出しになつても持参人から請求があれば即時御支拂することになつて居ります、等々の御注意がある筈である、先づ小切手帳が使へる身分になつたことは中小商人としてはうれしうござらう、それを見返りに手形の發行も出来るから急に信用が付たかのやうに

然し考へて見よう、千圓預けた金の三割が定期残りとなるのでは千圓が七割にしか働かぬわけである、そして得たる利益は殆どゼロである……と云つて銀行側には元帳と小切手帳を一頁取つて預金帳と小切手帳とを渡して「残りなし」では遣り切れぬ、やはり三割位の残は要求するのが當然である、その三割を各支店から本店へ集めてこゝに大資金となり大資本家へ貸出すのである、それが銀行の建前である。

そこで取引者側であるが是はミシメなものである、千圓は七百圓になる手形の當日その

相當金額を持ち込むやうでは信用はゼロで警告警戒となる、此處で考へさせられるのは銀行から金を借るには担保がいゝ、差入證がいゝ、更に手形がある、二億の資財で半分かりられるなら上の部の計算になる、銀行は元々他人のゼニを他の他人に貸出すのだから警戒に警戒をするのが當然で、これが銀行の行法を示す手形銀行である、だから貧乏人は質屋に行つた方が早いことになる、質屋なら銀行であつたらぬ時計でも衣類でも金化する、銀行の擔保には自ら制限がある。

百萬言を費した所で「ない袖は振れぬ」連中が銀行の仕組みを知らずに千圓を七百圓に使ふ人々の氣が知れないと云へば其途であるが、裏には裏があつて事情を明かして送金爲替など頼む時に不徳の支店主金せすに或る者や謀つて銀區の延納からそれが爲め試掘權が消滅して同じ者がマンマと他人の名義になつたり又はプロムナと組んで買取つた土地など其値段其儘で銀行に擔保に入れて後日の賣出し利益を山分けしたりなどして居る者もない

とも云へない。

斯の如くに苦き進める時は胸にキクリとくる者があるかも知れない、支店銀行の諸君速に預金は遊金のある方面を漁るべきである、年金で食てゐる人とか米亡人とか大家さんとか大金持などから……中小商人の手提金庫の中の遊金——それは明日の資金である——を狙つてこれを本店に送つたのでは大きな目で見て資本が片寄つてイカサ、大資本家の御手元にはいつた資金が地方の者達まで流出して行くには相當の時間がかかる。

地方の中小商人は「死満腹」のピンチに迫り込まれた野球のプレーヤーを見たいものだからウイニングボールのやうにシツカリ狙つてゐたのでは駄目だ、即刻、瞬間に次から次へと廻さねばならぬのである、按ずるに「球は一つ野手は九人である」との道理がわかれば他は敢て言はないこととする。

縣議戦出馬を
頑張る大河原君

明年九月の縣議戦に石城郡中部から出馬すると頑張つてゐる好問村の大河原平君は果して其の希望が達せられるであらうか、彼氏は郡會長鈴木前代議士の縁戚關係者でもあ

るに對し鈴木氏は唯一の部下である連沼龍雄君は再選を念願として現に準備中であつて見れば此の間隔る變なもので茂平君がよほどの馬力がかげぬ事には實現に困難するであらうが掛引の上手な連沼君に勝つと云ふことは最後の手段に大奮發をせねばならぬ。

齊藤君再出陣

前回は敗を取つた立憲會正會福島縣第三區聯合支部長石城郡玉川村齊藤龍雄君は明年の縣議選には再び馬を陣頭に進め既成政黨の振るはざるの機に乗じて必勝を期すべく既に準備中の噂事でもあり過般の時局演説會の如き大衆に呼び掛ける此の種の工作は今後機会あることに現はれることであらう。

萩原君立候補

民政石城郡會事長平市議萩原龍雄君は中部より明秋の縣議戦に立候補する事は恐らく事實となるらしく其の準備工作に、市部立候補者と目せらるる者との間に五へが掛引あるらしく過般の信用組合役員選挙が雄辯に此間の消息を洩らしてゐる。

満洲だより

色々世話様になりまして有難う御座いました去る廿九日内原川東京に於いて列車不通により二日間足止めを喰ひ七月一日夕刻東京驛を官民多數の見送りを受けて出發し二日正午神戸にて大阪商船の鴨綠丸に乗船(竹田宮記殿下と御同船)瀬戸内海の風光を賞し支那の港海にメロヒを感じて海に入つてはトリとしたり静かな波に故國の空を望みなご仕舞ら五日の朝大連に着きました大連は蒙匪輩(ヤンチヨ(馬車)と人力車と軒下)にうつくまつて何かをしやぶつてゐる呑氣な苦力等に滿洲に來たといふ感じを持ちました、其の後通つた旅順、奉天或は瀋陽沿線の都市と同じ様に着物着た日本人の影、いゝに先づ吾等の滿洲の感を強ういたしました。

大連では瀋陽の方から旅順の戦艦を案内して鐵き乃木廣瀨の兩軍神並に先程の苦戦死闘に感概と決心を深めました、大連を五日の夜出て六日夕刻無事現地に入りました、此所取柴河は日本語でトリンバカハ満語でチニイチャイホと呼び四圍山に囲まれた瀋陽から一軒線路から百米の地點に在り設備頗る充實して居ます、當つて匪害で有名な地獄だつた相ですが今は何とも有りません、今後當地の模様を通信致します。

滿洲國奉天線取柴河
鐵道自警隊訓練所
道 藤 金 作

磐城に大活躍を開始した

資本金一億五千四百萬圓

總元締中野友禮論

今や磐城の天地に大なる活躍を初め出したのが日曹系統の事業である、此の總元締たる中野社長は今日に至つた経歴と其手腕とを綴りつた経歴のことではあるまい、何んと云つても今後の磐城を化學的に開發する第一者ではあるまいか。此處に於て磐城人はよく其の人物を知るの必要がある。

鹽を化學工業に使ふといふのはどういふことかと云ふと、元來、鹽といふものはナトリウムと鹽素の化合したものでつまり食鹽からナトリウムと鹽素を分けることで、これが今日の曹達工業の根柢所となつてゐる。食鹽から曹達を採ることは早く着目されてゐたが、これを初めて完成したのは有名なフランスのルブランである。それに際する發明をしたのはベルギーのソルベールであるが、ルブランのソルベールのも鹽の原料の豐富な歐洲でこそ非常な成功を見せたが、この方法では反酸しない鹽が半分も残るので、鹽の高價な日本では曹達工業は非常な不利を蒙つて驕足を伸ばすに至らなかつた。

然るに、電解法の工業化によつて日本の曹達工業も萬丈の氣を吐きやうになつた。それは私の發明した電解法によつて大正四年保土ヶ谷で私が一番最初に手をつけたのであるが、つまり食鹽を電氣分解によつて、水素、鹽素、苛性曹達の三つのものに分けることに成功したのである。

これは中野社長が自ら説いてゐるのだが、この鹽を三つのものに分けたのに端を凝して鹽素から硝酸が出來、鹽酸が採れ、染料が生れ、香料が、藥品がと止まるところを知らない勢でいろいろなものが出て來る。一方水素は飛行船、輕氣球の血液とまで言はれる重要なものであるばかりでなく、爆薬、石鹼、ノバターの重要原料である。そして苛性曹達から、金屬ナトリウム、過酸化曹達、アマイド、苛性曹達(これは苛性加里のことである)等が採れたり、出來たり生れたりする。

中野が「握の鹽」の中で言つた一億五千四百萬圓の鹽は、食鹽として酒屋が家庭へ持つて來るのは一担が五錢八厘である。斯ういふ値段を出すといふ平民の家族にも判る値段になるが、これを解かして苛性曹達にするといふ十九錢八厘になり、もう一つ念入りに解かすと一担二圓四十錢のグリセリンになり、こつとをもう一度解かすと何十圓とまで騰つて行くのだから、麻雀の一擲だの兩擲だのなんて計算は可笑しいからなものである。斯ういふ計算だと日曹はたゞの商賣のやうに聞えるが、そこには工場もあれば電氣も要する金も要するのだから、まるまると儲かる譯ではないが、儲かることは確である。

中野は鹽を解いて大きくつた。鹽を解くといふのは鹽を電氣で分解すること、つまり鹽の成分電氣化加里を電解すれば、苛性曹達、苛性加里、水素、鹽素、鹽酸曹達、鹽酸加里といつたやうなものが派生する、日本でこの方法を研究して電氣化した最初の人間なのである。中野の考案した鹽の電氣分解法は、從來のアンモニア曹達法を基調として中野式電槽を發明した。この特許をとつて電氣曹達工業會社を興したのが去大正四年の春である。勿論そこには磯村吾介といふ製糖業者が資本家となつて中野は技師長として迎へられたのだが、この時中野は二十九歳で天才化學者を擧げられたのである。

二十九歳の技師長中野友禮は資本金七萬圓の程を曹達に一年程の間に百萬圓も儲けたといふから怖いみたいである。そして儲けはとられぬ句の果に中野式電氣曹達法の特許まで捲上げられて資本家に抛り出されて仕舞つた。この憤りが技術者を食物にする資本家に對して技術者自ら株を持つたねばならぬといふ信念を固くさせ、今日の中野が資本あつめに天晴れた腕前を持つに至らしたものである。

大正六年江尻に五十萬圓の日曹達を創立したが、これは歐洲大戰終了の餘波をうけて共同投資者だつた富士水電に合併して無くなつてしまつた。その後大正九年更に日本曹達を七十五萬圓で創立し新潟縣二本木に工場を持つた。これが中野をして新興化學工業界に日曹コンツェルンを擧げしめる主力工場なのである。或は技師長、經營者、資本家を兼ねる獨裁者だが無愛想ではない。技術者に似合はぬ人柄も今日の大をなす要素となつてゐる。中野の人柄を語る一つの挿話として傳へられてゐる話がある。

彼がまだ今日の大をなさぬ時分のことだが、京都の商人に拾萬圓の借金を申込んだ。所がその商人は中野の會社の社員から、社の主眼部も要部に在るものも悉く程谷以來の人達だと聞いて黙つて無償貸付たといふ。青年中野が協同者に慕はれる點は中野の人柄を語るにふさはしいが、そこを見抜いたこの商人も凡人ではない。

小額資金

確實な組合組織出資小額利益は高率
優良實株賣買による絶対安全の方法

安全利殖妙諦

聞に

「利殖之妙諦」未だ御覧にならぬ方は、東京市日本橋區兜町二ノ二九「天和證券投資協會」へ御申込になれば早速贈呈します。
又、「利殖之妙諦」記述に就て御疑問あれば、御質問下さい。詳細に御説明御回答申し上げます。

近代人の生活と印刷物

新聞や、雑誌や、書籍や、各種のパンフレットは日となく夜となく。新らしい知識と、ニュースや、娯樂を吾々に傳へて呉れます。吾々はこれに依り、家庭を朗らかにし、情操を豊かにし、更らに公人として又は進んで社會人としての教養と訓練を積みます。
もし全國の印刷所が一齊にその扉をたたいたらどうなるでせう、夕刊のない日曜日は誰れでも物足らぬ淋しさを禁じ得ないでせう。輪轉印刷機の音が止みかたつ又、ローラベルトが止つたら、恐らく國政の運用は滯滞し、社會の秩序は回滑を缺き、世をあげて暗黒化せざるを得ないでせう。

菌部政治著
常磐炭礦誌
常磐炭界五十年の變遷を輯録せる頗る有益の著書である

寫真十數葉挿入
四六判約二百頁
目下發賣中(賣切近し)
定價 一圓二十錢也

發行所 **磐城之實業社**
電話七二九番

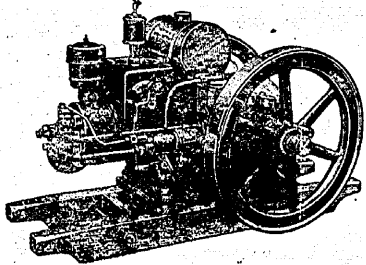
切一物金鐵銅

釜屋商店

磐城セメント特約代理店
三井生命保險平代理店
平市五丁目電話一九九番

型小ノ一唯界斯誇ノ邦本

用併件數十許特賣專案新用價



【強綫一付ニ力馬一時間一費料燃】

代理店
各種機械・農具・水力企業
常磐ヤーマンヤ
新妻良日

「私共印刷職に従事するもの、その責任の重大と、一國文化の消長に關する意義ある營業にたづさわるを、常に誇りと熱を以て終始一貫努力を續けるものであります。」

印刷は 文化の生驛として 知識の源泉なり
所刷印田和大 三二町仲平 番九二七話電